

## 2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

### 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 福島県 】

学校名【 郡山市立緑ヶ丘第一小学校 】

1 実践テーマ	V
2 実施対象者 (学年・人数)	全校児童 572名、教職員35名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 ( 生活科・総合的な学習の時間 ) ② 行事名 ( アスリートを知ろう、ふれあおう！ )
4 目 標 (ねらい)	○スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成を図る。 ○本校の卒業生でもあり、児童にとってのつながりのある先輩として、さらに夢に向かって努力している人との出会いを通じ、目標に向かって努力することの大切さや運動の楽しさを知り、今後の自分の生活に生かすことができる。
5 取組内容	(1) アスリートを知ろう ① 小澤選手にとってのオリンピック 粘り、腕振り、最後まで頑張るといったモットーのもと、日々努力し続けていることを知ることができた。 ② 日立女子陸上部としての活動 「君こそアスリート」の映像を見て、具体的な活躍の様子を知ることができた。 ③ 小学時代の思い出 体を動かすことが大好きだったことやスポーツ少年団でも活躍されていたことを知った。市の陸上交歓会の記録が今でも破られていないことや体育館にも記録が掲示されていることを知り、児童は驚いていた。



(2) アスリートとうんどうしよう

低・中・高学年に分かれ、校庭で走り方の基本を教わったり鬼ごっこをしたりしながら、運動の楽しさを味わった。



(3) アスリートとふれあおう

卒業生でもある小澤選手と一緒に給食を食べ、小学校時代のお話や速く走るコツを教わり、最後に一緒に母校の校歌を斉唱して、先輩とのつながりを満喫できた。



6 主な成果

生活科や総合的な学習で学んだ人とのつながりの大切さを本校の先輩でもあり身近な人物とふれあうことでさらに深めることができた。

7 実践において工夫した点  
(事業の特色)

アスリートであり、本校の先輩という児童にとって身近な存在の方からお話を伺ったり、一緒に体を動かしたりする機会は、夢に向かって頑張る気持ちを高めることができると考えた。

8 主な課題等

アスリートの大会等のスケジュールの関係で、なかなか希望した日程で実施することが難しい。

9 来年度以降の実施予定

自ら運動することに消極的な児童が増えてきていることから、今後も運動する楽しさを味わわせ、生涯教育につなげていきたい。